

# 2017 評議員研修会

## 同仁会の歴史と方針を 学び、活発に討議



穴井勉専務理事の報告

は、なく、ディスカッションを重視した会議運営をめざしていきま

昨年12月12日に社会医療法人同 仁会評議員研修会を、同仁会本部 会議室で開催しました。

この間、「理事会・評議員会の 運営検討プロジェクト会議」で討 議された内容を、理事会で吟味し てきました。

「憲法を守る」「医師確保」「同 仁会としてのまちづくり」等をテ ーマにした理事会議論を、評議員 会でさらに深めていけるよう、場 づくりを進め、報告中心の事項で

そして今回、新たに選出された 「新評議員」へ向けた「研修会」 を2つのテーマに絞り、開催しま した。

研修会では、今の医療・介護を とりまく情勢や同仁会のこれまで の歴史、そしてこれから進むべき 道を過去の教訓を踏まえて「無差 別・平等の立場で、最も困難な方 の目線」で向き合う姿勢が穴井勉 専務理事から報告されました。

清水琢総務部長から は、医療法人・社会医療 法人の基礎知識から組織 運営、そして同仁会評議 員としての役割等が説明 されました。

2つの講義を受けて各 グループで活発な討議が 行なわれ、質問も出され るなど、予定していた2 時間はあっという間に過 ぎ、評議員としての役割 を学んでいただけたと思 います。

同仁会

本部運営事務局



グループ討議の様子

### 理事会報告

#### 11月度理事会（概要）

11月30日（木）午後6時30分 から理事21名、監事3名の出席 で2017年度・第3回理事会が 社会医療法人同仁会本部3階 会議室で開催されました。

理事長挨拶のあと、専務より 議事に先立ち、総合病院看護部 長が拡大常任理事、参与任命の 提案を行い承認されました。会 務報告、その他の友の会活動理 事会アピール文等の報告がされ

出席理事全員が確認しました。 また、理事・監事研修（12月16日 開催）を理事会として位置づけ て開催し、及び評議員の研修に ついての提案、友の会拡大強化

月間についての報告、人事の任 命及び出向の提案等出席理事の

賛成にて承認されました。

〈主な内容〉

- ①全日本民医連、大阪民医連、 拡大常任理事会報告
- ②看護確保推進委員会報告
- ③健康友の会みみはら代表世話 人会議報告
- ④10月度経営結果についての報 告及び上半期経営結果と下半 期経営課題報告
- ⑤協議・確認事項
  - ・理事会の運営プロジェクト からの提案
  - ・理事及び評議員の研修につ いての提案
  - ・友の会拡大強化月間につい ての報告
  - ・人事の任命及び出向につい ての提案
  - ・銀行借入に関する提案

## 異文化コミュニケーションカンファレンス

### 「生命を表現するイラストレーション」

日時：2月15日（木）18時～

場所：耳原総合病院 地域交流ゾーン 「みみはらホール」

講師：小田 隆氏

#### プロフィール

1969年三重県生まれ。95年、東京芸術大学美術研究科修士課程修了。油画と壁画を専攻する。幅広い古生物学者たちとの交流の中で、科学的に資料に支えられると共に、オリジナリティに富んだ作品群を生みだし続けている。また、絵画作品の制作や発表も積極的に行い、大学では美術解剖学を応用した人体の描写を研究・授業を担当されている。現在は、成安造形大学イラストレーションクラス特任准教授、日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師である。（小田隆氏の公式ウェブサイトより引用）



## 耳原実費診療所創立60周年記念誌

# 60年のあゆみ

いのち輝け未来へ

その1

2016年12月号から、リム・ボン教授著（立命館大学産業社会学部教授・都市社会学科）「耳原総合病院建替え事業にみる協同の思想」約1年間連載してきました。 『耳原実費診療所創設60周年記念誌』として発行された『60年のあゆみ』をあらためて振り返る新シリーズとして、今回から新病院建設までの歩みを懐かしい写真も入れながら連載を開始します。

### 第一章 地域の人々とともに実費診療所創設そして病院建設へ

#### 1949年～1958年

1945年頃、日本は敗戦後の荒廃と疲弊に包まれてしまし たが、一方で民主運動が全国的 に盛り上がり、その一環として 働く人たちのための民主診療所 づくりの運動が高まっていた時 期でもありました。

当時、耳原町（現・協和町）



貧困で医療も受けられなかった当時の耳原町（現・協和町）

には約1700の世帯に約700人の人たちが暮らしていま したが、貧困のため不衛生な環 境での生活を余儀なくされてい ました。しかも、当時この町に はトフホームや結核が蔓延して いたにもかかわらず、いわれな き差別によって安心して診ても らえる医療施設がな

く、助かるべき尊い 生命を亡くしたとい う悲しい事実があり ます。それ故「患者 の立場から気安くい けて親切・丁寧に診 てもらう診療所の 建設」は地域の人た ちにとつての悲願で した。

101000円の カンパを集めて

こつした中、医療を真に働く 人々のものにしよつとする医師 らと、自らの健康を自らの手で 守ろうとする部落解放委員会 （現・全解連堺支部）や地域住 民が中心となって、「耳原健康 を守る会」が組織され、診療所 づくりのための運動を展開。地 域の人たちから寄せられた10 1000円総額3万円にも上るカ ンパを資金に、1950年（昭 和25年）2月、民家の2階を間 借りして「耳原実費診療所」が 開設されました。「自分たちの手 で診療所を」という地域の人た ちの切実な願いが、ついに実を 結んだのです。その後診療所は 1951年8月、堺市立耳原青 年会館の一部に移転しました。

（つづく）



耳原実費診療所（1950年）